



—東地中海地域ニュース—

シリア：ミッチェル中東和平担当特使のシリア訪問

(6月13日付シリア国営通信社)

12-13日、ミッチェル米中東和平担当特使がシリアを訪問し、13日にバッシャール・アサド大統領と会談した。13日付シリア国営通信社の報道は以下の通り。なお、14日付ハヤート紙によれば、この会談には米国側よりフェルトマン米國務次官補、ホフ中東和平担当特使補佐官が同席し、この会談とは別にバッシャール大統領とミッチェル特使の単独会談が約90分行われたと報じられた。

(※中東調査会注：ミッチェル米中東和平担当特使のシリア訪問は今回が初めてである)

1. 両者は、中東における和平の展望の情勢等について話し合った。
2. ミッチェル特使は、中東諸国歴訪の成果及び和平プロセスに対する米のビジョンを説明し、米政権及びオバマ米大統領の包括的中東和平構築に向けたコミットメントを強調した。
3. バッシャール大統領は、国際的に正当な諸決議に基づいた公正かつ包括的和平の構築を求めるシリアの確固たる立場を再確認した。また、和平に向けた明確かつ正確なビジョンに到達するための、相互尊重と相互利益に基づいた真剣かつ建設的な対話の重要性を強調した。さらに、シリアとしてイラクのアラブ・アイデンティティ及び領土の統一を重視すると述べた。
4. 両者は、中東における諸問題は相互に関連しており、いかなる問題における進展も他の問題を前向きに方向付ける事に貢献するとの点で意見が一致した。また、両国国民の利益に資するような正常な両国関係の構築に意欲を示した。
5. 会談にはムアッリム外相、シャアバーン大統領顧問、ミクダード副外相等が同席した。
6. 会談後の記者会見において、ミッチェル特使は以下の通り述べた。
  - (1) 多くの深刻な問題及び両国関係について、バッシャール大統領と中身のある会談を行った。これらの努力に基づき相互尊重と相互利益に基づいた関係を構築していきたい。シリアと対話を継続する事を楽しみにしている。

(2) シリアは包括的中東和平達成に向け不可欠な役割を担っている。米国は包括的中東和平を活発に模索していく事にコミットする。米国の大統領及び国務長官は既にイスラエルとシリア、レバノン、パレスチナそれぞれとの間の和平構築に向け努力すると発表している。

(3) 我々が達成しようとしている和平は包括的な和平である。我々の途上に多くの困難があることはよく分かっているが、目的達成のため交渉を即時再開できるよう適切な状況を創出する事に我々はコミットしている。実質的なステップを踏まえてこれらの努力を支持していくことが、米、欧州、アラブ、イスラエルの和平を求める全ての人々の利益に適うであろう。